

**〔同志社中 わくわく理科〕**

はなおれだんそう

**花折断層を・・・**

**観て、触って、またぐ！**

本校から1.8kmのところ「花折断層」という“活断層”が走っています。この断層が動いたとされるもっとも新しい時期は、今から2000～2500年前ごろとされています。この断層は本日フィールドワークする左京区に、表層地形の特徴として見事にその姿が残っています。また今出川通りの工事現場で「地層の剥ぎ取り」が行われ、現在その試料は、京都大学総合博物館に展示されています。本日は、「阪神淡路大震災」（兵庫県南部地震）、「東日本大震災」（東北地方太平洋沖地震）と、地震の活動期に入ったとされる日本列島の傷跡のひとつ「花折断層」を観て、触って、またぎましょう！そして、少しでも日本列島の地質の特徴をシメージすることができれば、今後の自然の理解に絶大な影響を及ぼすことになるでしょう！

**<日時> 2013年12月13日（金）**

**<集合> 地下鉄「今出川」駅南改札口前に「午前9時」**

**<解散> 銀閣寺門前にて「正午」頃**

**<行程> 地下鉄「今出川」→京大農学部グラウンド→吉田山（吉田神社）→宗忠神社→真如堂→白川→哲学の道→法然院→銀閣寺（…ここから大文字山に登る人は自由）**

**<持ち物> 飲み物、軽食（おやつ、行動食）、筆記具、メモ帳、雨具、交通費、元気な体**

**<服装> 歩きやすい靴、防寒具（携帯カイロなども）**

・あれば便利なもの→カメラ、双眼鏡（ついでに冬鳥も観ます！）、地図ほか、常備薬

（案内人：なべやん）

法然院の東法面は花折断層東の鹿ヶ谷断層！



京大農学部東グラウンドの東側は花折断層によるズレ！



### 1. <花折断層による断層崖>

京都大学グラウンドと東側地面との境界は3mほどの高低差がありました。ここがまさしく花折断層の断層面。花折断層は逆断層で右横ずれ断層らしいです。



### 2. <階段状に隆起している東斜面>

1の場所から東側を眺めると、階段状に土地が変位しています。これも花折断層による特徴的な地形です。



### 3. <吉田山の西側斜面>

京都大学グラウンドの東側で観察した花折断層が、ここ吉田山の西側に連続しています。確かにここは山の斜面が急傾斜です。ここからさらに南南西に伸びた断層面が吉田山の南端でほぼ南に向きを変えます。参加生徒のみなさんも断層が作る地形に納得したようでした。



### 4. <カシノナガキクイムシの被害木>

花折断層とは関係がありませんが、ここ吉田山のナラやカシの木には、写真のようなプラスチック製の爪楊枝のようなものが木に刺してありました。これはカシノナガキクイムシという昆虫が侵入した穴を成虫が出てこないようにふさいでいるものです。この山ではかなり被害が大きかったようで、随所にこのような姿の木が見られました。



#### 5. < 吉田山の西側斜面 >

吉田山から急勾配の坂を下りて真如堂に向かうと今度は登り。そして真如堂から東に目を向けると、今度はまた急傾斜の下り。ここはまさしく花折断層の活動で生じた「地塁」(ちるい)と「地溝」(ちこう)です。つまり、断層活動で周囲の地盤がブロック化し、ブロックが地塁、ブロックどうしの境界が地溝になったとされています。地形がこのような解説されることがとても面白いです。



#### 6. < 法然院では鹿ヶ谷断層の断層面を観察 >

法然院は紅葉の美しさや谷崎潤一郎夫妻の墓があることでも有名ですが、今回は断層による地形が見事に観察できる場所を訪れました。



#### 7. < 鹿ヶ谷断層の断層面 >

法然院の北東側に行くと、山の斜面との境界に出ます。ここがまさしく鹿ヶ谷断層の断層面です。この斜面があまりにも急なため、法然院の方も積み石で補強されたので、今では石垣になっています。



#### 8. < みんなで記念写真 >